

大腸癌研究会プロジェクト
『pT1 大腸癌のリンパ節転移の国際共同研究』

- 研究 1 (日米共同) pT1 大腸癌における「内視鏡摘除後の追加治療の適応基準 (大腸癌治療ガイドライン)」の検証とリンパ節転移リスク算出 tool の作成
研究 2 (日英共同) pT1 大腸癌のリンパ節転移のリスク因子に関する研究 (Formula One Study)

第 13 回会議議事録

2023 年 7 月 6 日

尼崎総合文化センター「あましんアルカイックホール・オクト」+ web

■出席者 (50 音順、敬称略)

- 委員長 防衛医科大学校外科：上野 秀樹
- プロジェクトアドバイザー 兼国際共同研究の研究責任者：杉原 健一(欠席)
- 委員 (50 音順)：秋元直彦、味岡洋一(欠席)、池松弘朗(欠席)、石黒めぐみ(欠席)、石原聡一郎 (代理：佐々木和人)、市川一仁、浦岡俊夫、大内彬弘、大沼忍、岡志郎、奥山隆(欠席)、勝又健次(欠席)、金光幸秀、河内洋、桑井寿雄、小嶋基寛、小林宏寿、小森康司、今野真己、斎藤彰一(欠席)、齋藤裕輔(欠席)、齋藤豊、坂本一博、島崎英幸(欠席)、菅井有、関根茂樹(欠席)、高松学、田中信治(欠席)、富樫一智、中井啓介、永田信二、中村好宏(欠席)、藤盛孝博(欠席)、福長洋介、堀田欣一、松下弘雄、松田健司、山田一隆、山田真善、山野泰穂(欠席)、吉田直久、梶原由規 (事務局)
- オブザーバー 33 名

■会議内容

1. 研究 1 (Nomogram study)

(1) 進捗状況について

事務局より、主解析論文の一つである『Nomogram as a novel predictive tool for lymph node metastasis in T1 colorectal cancer treated with endoscopic resection: A nationwide, multicenter study』が *Gastrointestinal Endoscopy* 誌に掲載されたこと、および、1 篇の主解析論文と 3 編の副次的解析論文が投稿中であることが報告された。また、米国の共同研究機関 (Cleveland Clinic) において国際共同研究用のプロトコールを作成中であることが紹介された。

(2) 副次的研究について

以下の 3 課題の副次的研究について報告された。

- pT1 大腸癌の組織学的リスク因子判定において特殊染色が与える影響 (がん研有明病院 高松 学先生)
⇒ 脈管侵襲の検出頻度に施設間差が存在しており、判定に使用した特殊染色等の影響を検証するために各施設にアンケート調査を行うことが提案され、了承された。
- pT1 大腸癌の局所切除後追加外科手術推奨レベル別にみた再発リスクに関する検討

(安佐市民病院 嶋田 賢次郎先生、永田 信二先生)

⇒ガイドラインで示されている追加外科手術を考慮する因子に関して、因子によって再発リスクが異なることが報告された。主解析論文との重複を避ける調整を行うことを認識共有した。

- 下部直腸早期癌におけるリンパ節転移危険因子と治療の現状

(東京都立広尾病院 小林 宏寿先生)

⇒pT1 下部直腸癌では臨床病理学的特徴やリンパ節転移リスク因子が他の部位と異なり、悪性度が高いことが報告された。国立がんセンター東病院の副次的研究と重複しないよう事務局から調整することを確認した。

2. 研究 2 (F1 study)

(1) 進捗状況について

事務局より新規病理因子（簇出、低分化胞巣、最低分化度など）について、病理分科会で作成した病理アトラスに基づく判定による 2 回目の interobserver study を行い、評価の一致率が脈管侵襲等の一致率と同等以上であることが確認できたため、本体研究の病理評価を開始したことが報告された。

3. その他

浦岡委員より、研究 1 における東京医療センターの Ip 型の T1 大腸癌に関する副次的研究において、Head invasion 等で他のリンパ節転移リスク因子が存在しないにも関わらず再発を来した 7 例について、データベースの変更を伴わない病理所見の再評価が提案され、事務局を介して該当症例を登録した施設に個別に調整を行うことが了承された。